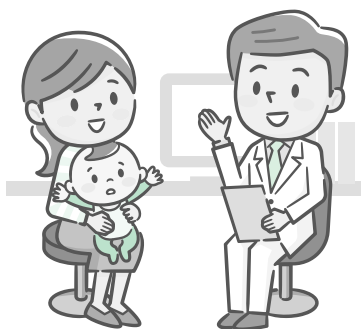


Q 乳幼児健康診査の充実を

こばやし
小林ひとみ 議員



A 5歳児健診は有用だが医師や専門職の確保が課題



問 現状の1か月児健診の実施方法と費用負担は。

答 1か月児健診は母子保健法に基づく法定健診ではなく、市町村に実施義務がないことから、ほとんどの赤ちゃんは母親が出産した医療機関で個別に健診を受けている。費用は全額自己負担となっている。

問 国から1か月児に対し健康診査の実施を目指すという打ち出しがあったが、今後、費用助成を行うのか。

答 市が各市町村にある産婦人科と契約を結ぶことは困難なことから、県が集合契約に向けて調整をしている。県が集合契約を結んだ後、契約の中に入れていただく形で準備を進めている。
問 5歳児健診の必要性や課題

は。

答 5歳児は言語の理解力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期と言われている。5歳児健診は、子どもの特性を早期に発見し、適切な支援につなげる目的があり有用である。現時点では、発達障害を専門とする医師や専門職の確保などの健診体制の整備が課題である。

◎その他の質問

一 ヤングケアラー支援について
二 保育所の土曜保育について

Q 第3期鶴ヶ島市環境基本計画について

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A 市の望ましい環境像の実現を目指す

問 本市は2050年ゼロカーボンシティを目指すことを宣言したが、望ましい環境について。

答 市民、事業者、行政の3者が実施主体として協働し、オーラル鶴ヶ島で課題へ取り組んでいく。安心して暮らすことのできる環境を未来に継承していく。

問 「安心で快適に暮らせるま

ちをつくる」とは。

答 大気、水質、騒音など生活環境に関する内容のほか、気候変動問題に対する緩和策、適応策を進めていくことである。

問 「地球温暖化対策に取り組みまちをつくる」とは。

答 様々な社会生活において排出される温室効果ガスの排出量

を削減していくことである。

問 「5Rを推進し、循環型社会を目指すまちをつくる」とは。
答 ごみを減らし、限りある資源を守っていくことである。

問 「緑と水に育まれた命みちあふれるまちをつくる」とは。
答 身近な緑や生物を守り、かけがえない自然を維持し、次世代に残していくことである。

問 「人の交流が豊かなまちをつくる」とは。
答 市民参加型の活動や環境学習などにより環境意識の向上を図り、多くの人に環境問題に取り組んでもらうことである。



自然を守ってゼロカーボン！